

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

7
No.749

P2 特集

「ストップ・ザ・無縁社会」絆つなげる 明日へつながる⑫

地域における生活困窮者支援の課題を考える

P6 「ストップ・ザ・無縁社会」広がれ! 全県キャンペーン

P7 みんなでつくるひょうごの福祉

集落全員が家族のようにつながる場
～古民家を改修した地域拠点「なかや」の魅力～

P8 まちとつながる・住民とつながる! 企業・NPOの地域づくりレポート

障害のある人たちの社会参加を応援
チャレンジド・クリエイティブ・プロジェクト
—株式会社 フェリシモー—

P9 地域を駆ける! ワーカー物語

支える人たちと共に学び、気づくことで、
その人に合った支援をしたい
社会福祉法人 三翠会
特別養護老人ホーム さんすい園 前川 嘉彦さん

P10 ひょうごの福祉NOW

P11 みんなの広場

P12 インフォメーション

7月は“社会を
明るくする運動”
の強調月間
だよ!



「ストップ・ザ・無縁社会」 絆つなげる 明日へつながる^⑫ 地域における生活困窮者 支援の課題を考える

生活困窮者の問題が大きな社会問題となる中、「改正生活保護法」「生活困窮者自立支援法」「子どもの貧困対策法」という三つの法案が国会に提出された。

特に、「生活困窮者自立支援法案」は、これまで行き届かなかった部分への支援策を講じるという点から、その動向に注目が集まっている。

今回の特集では、平成27年度からの法施行を前に、現状から見える支援上の課題について、事例を通して検証する。



フードバンク関西の活動の様子

体系化された 「生活困窮者」への支援方策

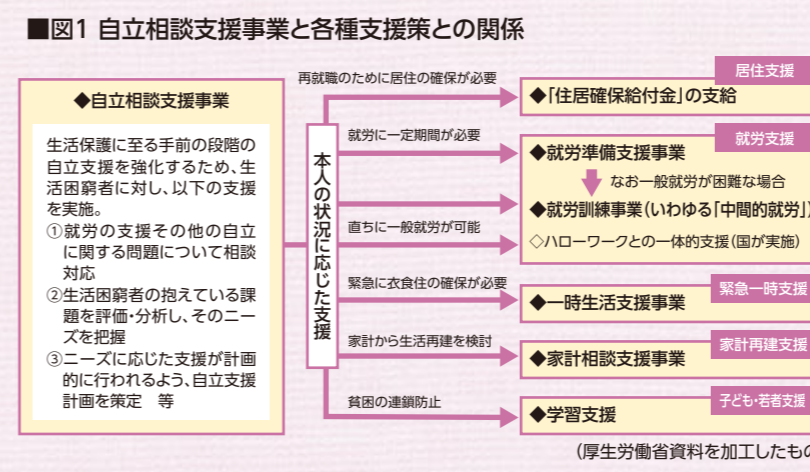
5月に閣議決定された「生活困窮者自立支援法案」において、生活困窮者は次のように定義されている。

第一条 この法律において「生活困窮者」とは、現に経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある者をいう。

同法案では、このような生活困窮者の「自立の促進」を図るための支援策が示されている。特に注目すべきポイントは、必要な支援を細切れに提供するのではなく、ワンストップの窓口を設け、必要に応じて一体的に各種支援を提供することが体系として示されたことだ。

具体的には、「生活困窮者自立相談支援事業」が中核的事業として掲げられ、自立支援計画の策定などにより各種支援策を組み合わせて提供する枠組みが示された。各種支援策としては居住支援、就労支援、緊急一時支援、家計再建支援、子ども若者支援が設けられ、相談者の状況

に応じて必要な支援を提供する体系となっている(図1参照)。
このような体系が構築された背景には、生活困窮者の多くが複合的に課題を抱えており、その解消のためには包括的な支援策の提供が必要であるとの考えがある。今後、具体的に支援を進めていく際に、どのような点が課題となるのだろうか。以下に、県内の三つの活動事例をもとに整理を進めていきたい。



(厚生労働省資料を加工したもの)



生活困窮者の住まいを支える「磯上荘」

事例

簡易宿泊施設「磯上荘」(神戸市)

「磯上荘」は、社会福祉法第2条の第二種社会福祉事業に規定されている簡易宿泊施設である。低所得で住居の確保が難しい18歳以上の男性労働者への宿泊場所の提供を目的に、昭和39年に神戸市により設置され、運営は神戸市社会福祉協議会が行っている。神戸の中心部から徒歩約10分という利便性の良い場所にあり、一泊200円という低料金設定から、これまで多くの生活困窮者の生活を支えてきた。

平成24年度における宿泊者数は2万580人で、平成25年6月現在で54人が同荘を利用している。年齢別に見ると、51歳以上が全体の74%と多くの割合を占める。一方で、30歳以下の在籍者もあり、幅広い世代に生活困窮の問題が広がっていることがわかる。磯上荘では入所時に身元や連絡先を確認しているが、利用者の入院や危篤など緊急時に連絡を行うことも、親族や知人などが取り合えないケースも多く、人とのつながりが薄れて孤立状態にある生活実態も垣間見られる。

磯上荘への相談の多くは、更生センター^{*}や福祉事務所から寄せられる。生活保護受給には至らないが収入が少なく宿泊場所の確保が難しいという相談の一方で、就労が決まり生活保護受給から脱却したケースなど、生活保護受給が終了した後の生活困窮者にも対応するなど、生活改善に向けた段階に応じて受け入れを行っている。

同荘の山崎邦博所長は「利用者は生活保護受給までは至らない方や生活保護終了後の方などさまざまであるが、この利用を足がかりに、継続した就労場所の確保や収支の管理、

人とのつながりなどの環境が十分に整っていけば、生活改善に向けた次の一歩が踏み出せるはずと語る。
※更生センター：神戸市が生活保護法に基づき運営する施設。住居を失った生活困窮者などに対して、入所による生活保護の現物給付や就職支援などを行っている。

事例

神戸の冬を支える会(神戸市)

特定非営利活動法人「神戸の冬を支える会」は、阪神・淡路大震災の発災直後に、住居を持たず野宿を余儀なくされている方への生活支援を目的に発足した。住居の確保ができるまでの一定期間の緊急一時的な宿泊場所や食事の提供のほか、公的支援の申請手続きの補助や就労支援を行っている。平成21年度からは県の委託を受けて神戸市・姫路市・尼崎市に拠点を置き、15人のスタッフによる生活相談を開始した。

各センターには、生活に困っている本人からだけでなく、福祉事務所からの連絡も含め多くの相談が寄せられ、新規相談は年間約1,000人に上る。相談内容は「今日明日の泊まる



「神戸の冬を支える会」の越年越冬活動

場所や食料がない」「夫からDV被害に遭い、着の身着のままに逃げてきて頼るところがない」など、切迫した生活課題を抱えるものが多い。また、これまでの主たる相談者は日雇労働者であったのが、近年では家庭内不和や精神疾患などを理由に、生活の居場所を失った20代〜30代などの若い世代からの相談も増えてきており、生活困窮にある層の多様化がみられるという。

同会の取り組みの特徴点は、食糧や宿泊場所の提供を含めた生活相談窓口の設置や細やかな就労支援など、既存の制度の枠組みでは行き



きめ細やかな就労支援を通じて相談者の自立を目指す

届かなかった課題を捉えて支援を進めてきた点だ。必要な情報を得ることができず相談窓口につながりにくいケースや、住居がなく即座の制度利用につながりにくいケースなど、相談者に寄り添った相談支援を行ってきた。

同会の青木しげゆき事務局長は「相談窓口は一つあれば良いのではなく、地域にあればあるほど良い。福祉施設や病院なども含め、あらゆる場所が相談窓口となって、困難を抱える人のSOSを受け止められる体制をつくることが大切」と語る。

生活困窮者支援を進める上での今後の課題

以上の三つの取り組み事例から、生活困窮者支援を進める上での今後の課題をまとめてみたい。

生活改善の段階に応じた切れ目のない支援

生活困窮者支援を進める際には、生活改善を進める一連の流れを把握し、段階に応じた支援策を組み合わせたことが必要となる。今回取り上げた事例でも、緊急一時的な支援から生活保護受給前後の対応、就労支援など、さまざまな段階での支援が見られたが、生活困窮者本人の継続した地域生活を支えていくためには、これらの支援が途切れることなく提供されることが大切となる。

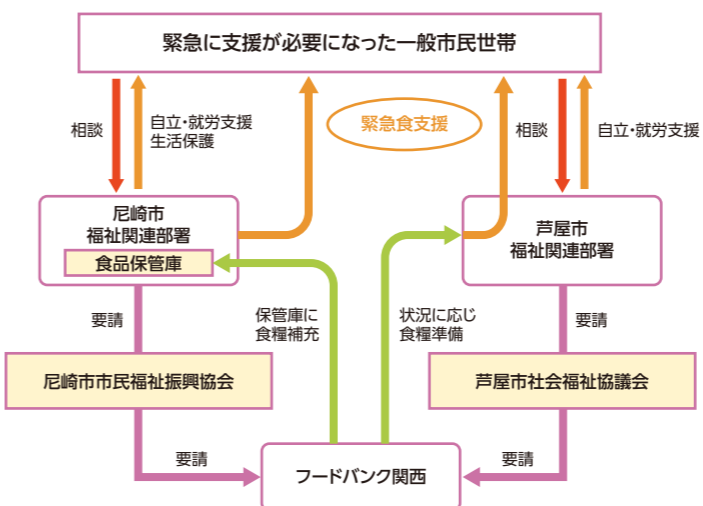
生活困窮者支援策と各種相談窓口との連携

一方で、前述した切れ目のない支援は、単独の団体のみで取り組んでいくことは難しい。さまざまな資源や情報を持つ支援者がネッ

事例 フードバンク関西(芦屋市)

特定非営利活動法人「フードバンク関西」は、食品関連企業から提供を受けた余剰食品を取りまとめ、福祉施設・団体などに無償で提供する活動を行っている。平成15年に始めた活動は、平成24年度には200トンを超える食品を92カ所の施設・団体に届けるまで広がってきている。同団体では平成22年より、それま

■図2 フードバンク関西の「食のセーフティネット」



この事業の特徴は、情報が集まる相談窓口とフードバンク関西とが連携することにより、支援を必要とする生活困窮者に対して食糧を届ける道筋をつくれた点だ。現在は、芦屋市では芦屋市社会福祉協議会、尼崎市では尼崎市市民福祉振興協会をそれぞれ窓口とした事業協定を結び、地域の実情に合ったかたちで食品支援を行っている(図2参照)。

理事長の浅葉めぐみさんは「生活困窮者への相談支援の手立てをもった団体との連携により、食品提供を含めた緊急支援のネットワークが広がりにつつある」



「フードバンク関西」に保管される食糧

と語る。「今後県内の行政機関や社会福祉協議会、民生委員など情報をもつ主体とつながって生活困窮者に対する支援の輪を広げていきたい」

すでに近隣他市とも同事業の実施に向けた協議が始まっており、県内全域における「食のセーフティネット構築」へ向けた取り組みを展開している。

トワークを組み、それぞれの強みを生かした連携を図ることが必要となる。いずれの事例でも、緊急的な食糧支援や宿泊場所などの支援実績を持つ団体と相談機関が連携することにより、生活困窮者への効果的なアプローチが可能となっている例がみられた。生活困窮者に対する支援は緊急性が求められる場合も多く、地域における支援を担ってきた社会福祉協議会や福祉施設・病院、民生委員などのあらゆる窓口の連携により、支援を必要とする方の声を早期に受け止めて対応する仕組みを広げていくことが必要となるだろう。

既存の制度の枠組みに捉われない支援展開

さらに、どんなに制度や支援策が充実し、支援者間の連携が進んだとしても、複合化・複雑化する現代の生活課題の全てを解決していくことは難しい。支援の隙間が発生した場合に、それを埋めるための努力が支援者には求められる。神戸の冬を支える会やフードバンク関西の事例でも、既存の制度の枠組みでは対応できなかった課題を先駆的に捉えて対応して

いる様子が見られた。今後支援を進める中で新たに発生する課題に対しては、既成の考えに縛られない柔軟な対応とともに、新たな支援策を開発する視点が必要である。そのためには、制度内での支援とインフォーマルな支援を含めたあらゆる資源を柔軟に「コーディネート」し、生活困窮者が本当に必要な支援を提供する相談窓口の役割が特に重要となる。

今回取り上げた芦屋市では、「食のセーフティネット」と併せて、平成24年12月号でも紹介したように、社会福祉協議会が総合相談窓口を市から受託し、さまざまな相談をワンストップで受け止めながら、必要に応じて専門機関につなぐ役割を担っている。また、「芦屋市地域発信型ネットワーク」の構築を掲げ、住民や専門職といった幅広い関係者による協議の場を設けるなど、生活困窮者支援に限らず、地域全体で生活課題に対応するための基盤整備が、県内で始まりつつある。

一方で、幅広い知識と調整力が必要とされる相談員の育成をどう進めていくかなど、取り組みの方向性

今回取り上げた事例の団体

- 簡易宿泊施設「磯上荘」
神戸市中央区磯上通2丁目2-32
☎078-221-2142 FAX078-221-2142
- 特定非営利活動法人「神戸の冬を支える会」
神戸市中央区中山手通1-28-7
☎078-271-7248 FAX078-271-3252
URL <http://www.kobe-fuyu.sakura.ne.jp/>
- 特定非営利活動法人「フードバンク関西」
芦屋市呉川町1-15 ☎&FAX0797-34-8330
URL <http://foodbankkansai.org/index.html>

がまだまだ明確となっていない部分も多い。生活困窮者に対する相談を総合的かつ効果的に進めることは、決して容易なことではないだろう。

「生活困窮者自立支援法」が平成27年度より本格施行されるのに先行して、厚生労働省では平成25年から生活困窮者自立促進支援モデル事業を全国で開始することとなった。これらモデル事業の動向なども踏まえながら、あらゆる支援策が機能する仕組みづくりについて、関係者間で協議を進めていく必要がある。

今回は、豊岡市但東町の小坂(こざこ)区にお邪魔したよ。ここは、21世帯44人の住民の皆さんが暮らす高齢化率約50%の集落。山深い地域では高齢化と過疎化が進んでいるけど、この地域の皆さんは元気で楽しそう!皆さんの元気の秘訣は何なのかな? ちょっとのぞいてみよう。



みんなでつくる ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

田植えの終わった日曜日のお昼前、京都府との県境にある小坂区で、茅葺き屋根の民家に続々と住民が集まり始める。女性陣はかまどで談笑しながら「ごちそうを作り、草刈りを終えた男性陣はバーベキューの火を手際よくおこしていく。みんなを協力し合って準備を進める様子は、親戚の集まりのようである。

古民家を改修した集落のシンボル

県内の多くの小規模集落で地域活動の担い手が少なくなり、集落の維持も困難となる中で、小坂区では毎月のように住民が集まり、交流を楽しんでいる。

「この古民家は先人が残した貴重な財産。区のある大きな家が朽ち果てていくのが残念で、少しでも長く次世代へ引き継ぎたかった」と区長の田口さんは語る。地区の会合で改修を提案した時、維持の問題など不安の声も上がったが、集落のこれからを考えて一念発起。地区総出で真っ黒になりながら片付けを行い、木材を持ち寄って改修を進め、

集落全員が家族のようにつながる場

～古民家を改修した地域拠点「なかや」の魅力～

地区の長老である道下さんは91歳で、「なかや」の相談役だ。「住民が楽しんで集うことが大切。おいしいものは人をつなぐ」という長老の思いを受けて、餅や団子づくり、そば打ち大会などの集いの場を催し、食を通じたつながりが生まれている。

交流を通じて地域が元気に

そのほかに、気の合う仲間での食事会やカラオケなど、さまざまな場で住民同士のコミュニケーションが深まっている。オープン後も囲炉裏を復活させたり、庭をきれいにしたりと、住民の思いが集まり、拠点の



「なかや」の外でも集いの準備が進む

囲炉裏を囲んで会話にも花が咲く

取材を終えて

「なかや」にお邪魔したところ、親戚のお家のような優しく懐かしい雰囲気迎え入れていただきました。集落の住民の皆さんが自然に過ごされている様子を、寄り合える場を持つ魅力を感じました。「世代間交流」や「過疎対策」などと型にはめて考えなくても、普段の暮らしをつないでいく場があれば、自然に人のつながりも育っていくと思いました。

新たな魅力が生まれつつある。当初は不安の声もあったが、「なかや」での集まりが地域に元気づけがりを作っているという実感を住民は抱いている。地区の将来についての話し合いも、回数を重ねるごとに活発になってきた。「いくつになっても、前向きに行動していくことが大切。『なかや』の立上げを通じていろんなことを教わった」と語る田口さん。いつまでも愛着のある地域に暮らし続けられることは住民の願いでもある。「なかや」を通じて、家族のように気に掛け合える住民のつながりが深まり、住民の支え合いの力が高まりにもつながっている。



「ストップ・ザ・無縁社会」
広がれ! 全県キャンペーン
<http://stop-muen.jp>

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの最新情報や、支え合いのメッセージをお伝えします。

TOPICS

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーン推進協議会の幹事会を開催しました!

6月19日、県福祉センターにて第2回目となる「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーン推進協議会の幹事会が開催されました。



冒頭のあいさつでは、代表幹事で本会会長の武田政義より、「このたび策定された兵庫長期ビジョンの推進方策でも、『つながりによる家族・地域の再生』が盛り込まれた。今まで以上に、『ストップ・ザ・無縁社会』に向けた啓発活動を展開してまいりたい」との抱負が語られました。

その後、平成24年度の事業報告・決算について報告するとともに、平成25年度の事業計画・予算についての協議を行い、2月の幹事会で意見のあった「身に着けられる」広報グッズの作成について、事務局より提案した結果、幹事の皆さんより了承いただきました。

また、平成25年度の総会・記念講演会については、8月下旬を目安に日程調整を行うことが確認されました。あわせて、各幹事団体・推進団体より独自の取り組みやキャンペーンに関するメッセージを募集し、総会で紹介していくことなどが確認されました。

総会・記念講演会については、詳細な日時などが決まりましたら、本紙および専用ホームページ(<http://stop-muen.jp>)でご案内させていただきます!



協賛事業のお知らせ

このたび、キャンペーンの協賛事業として、下記の行事が開催されます。各推進団体において、同様の事業がありましたら、本紙およびホームページで広報いたしますので、ぜひお知らせください!

Ricoの夏まつり (社会福祉法人 かがやき神戸)

日時 平成25年7月21日(日) 10:00~14:00
会場 コミュニティーカフェ[Rico]
(日新信用金庫玉津支店の前)
内容 バザー(古着、古本、食器、リサイクル品多数)、
模擬店(わたがし、たこ焼き、カレーなど)
問い合わせ先
社会福祉法人 かがやき神戸
コミュニティーカフェ[Rico]
神戸市西区塚台7-39
☎078-926-1170 FAX078-926-0090

キャンペーンの推進団体が 200団体となりました!!

このたび、新たに下記の団体より参画の申し出をいただきました。これにより、推進団体がついに200団体に到達いたしました!(6月6日現在)

新たに参画した団体

社会福祉法人 かがやき神戸

全県キャンペーンでは、300団体を目標に、引き続き推進団体を募集しています。さらに多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

また、「ひょうごの福祉」の特集をまとめた冊子やこのたびリニューアルしたのぼりなど、ご希望の場合は、ご遠慮なく事務局(兵庫県社協 ☎078-242-4633)までお知らせください!



このコーナーでは、県内の社協職員など“地域福祉を進める人々”の活動を取り上げながら、ワーカーとしての想いを伝えます。

頃からです。検討会は、気になる事例を持ち寄り、関わりのプロセスを全員で



お互いを認め合い、率直な意見が交わされる事例検討会

「小売店との関係は？」と質問され、はっとしました。近隣の方の見守りが大事であることは知識として知っていたものの、そこにアプローチできていない自分に気づきました。「3日顔を见ない日が続いたら連絡をください」と、地域の「チカラ」をお借りしま

人には来るべき時にその自分に合った出来事が訪れます。出会いや学びのタイミングを逃さないように、準備をします。

大切にしていることは、

地域で困っている人を支える数多くの支援者と出会い、共に学び続けていきたいです。

学び、悩みながら、仲間と共に、気づきを重なる場づくりに取り組む前川さん。ケアマネジャーの力量アップが、地域の困りごとを抱えた方の笑顔につながっていくことに期待が高まります。

「気づきの事例検討会」の詳細は兵庫県介護支援専門員協会ホームページ
URL <http://www.hyogo-carenet.com/>

社会福祉法人 三翠会
特別養護老人ホーム さんすい園
まえがわ よしひこ
前川 嘉彦さん

Personal History

- 21歳 さんすい園のアルバイトで高齢者と接する面白さを感じる
- 22歳 さんすい園に就職 ケアワーカーや相談員などを経て、ケアマネジャーに(現在は課長・主任生活相談員)
- 26歳 市内外のケアマネジャーらと「気づきの事例検討会」を開始
- 31歳 県内のケアマネジャーへの講師を担う



地域を駆ける！
ワーカー物語

支える人たちと共に学び、気づく「気づき」
その人に合った支援をしたい

あなたの原点は？

「前川さん、人間性だけで仕事しちやだめよ」

福祉介護の現場で自分なりに必死だった20代のとき、お世話になって

ひもつく場です。三田市内のケアマネジャーに声をかけ、当初年1、2回から始めました。現在では、基礎実践コース別に月1回の取り組みにまで発展し、参加者にアドバイスをする立場で関わっています。

印象に残るエピソードは？

20代の頃、一人暮らしで身寄りのない高齢者Aさんの事例を検討会に出しました。

した。これ以降小売店の方とは、Aさん以外にも地域で気になったことがあれば伝えてもらえる間柄になりました。

力を入れたい活動は？

相談援助は一人仕事であることも多く、思い悩むことが少なくありません。しかし、ケアマネジャーがお互いに気づきを共有し、刺激合いながら育っていくことで、よりよい支援につながると信じています。

取材を終えて

学び、悩みながら、仲間と共に、

気づきを重なる場づくりに取り組む

前川さん。ケアマネジャーの力量アップが、地域の困りごとを抱えた方の

笑顔につながっていくことに期待が

高まります。

まちとつながる・住民とつながる!

企業・NPOの地域づくりレポート

障害のある人たちの社会参加を応援

チャレンジド・クリエイティブ・プロジェクト 株式会社フェリスシモ

「みんなでつくるプロジェクト」

株式会社フェリスシモは、2003年より社会福祉法人プロップ・ステーション、兵庫県神戸市と共に地域の授産施設や小規模作業所などに呼び掛け、チャレンジド・クリエイティブ・プロジェクト(CCP)をスタートさせた。障害を持つ人は、神様から挑戦というチャンスを与えられた「チャレンジド」。障害を持ちながら社会参加しようとしている彼らの活躍の場を増やし、その自由な感性や丁寧なもののづくりを仕事につなげたい、という想いが発端だ。

「何ができるかそのときはまだ分からなかったんです。自主製品を紹介してほしいと参加を呼び掛けたところ、200以上の施設から応募いただきました。私たちものづくりをしていくとすればどういふことができるかを、一緒に検討して



いったことが始まりです」と、スタートからCCPを担当してきたしあわせ共創部の永富さ

んは話す。生産量や品質の問題などの壁を乗り越え、丁寧な手仕事の良さを商品の付加価値にしてプロジェクトの流れをつくった。

プランナーが考えたアイテムを雑貨作家がデザインし、作業所が一部のパーツを作って、メーカーが商品として仕上げていく。量産の商品の中に、



手作りガラスのネックレス(上)とさをり織りのスマホポーチ(下)

ハンドメイドの温かさを生かしたデザインを取り入れ、「アトリエメイド」というブランド名で流通させた。「一つ成功例ができる」と、そこから次々と広げて考えることができます。新しい企画をどんどん展開していきながら、10年間続けています。

多様なつながりから魅力的な商品

さをり織りを使ったスマホポーチや手作りガラスを使ったアクセサリ、ハンドペインティングのバッグなど、一つずつが微妙に違って、世界に一つだけのものが生まれる。商品には作業所

の名前や紹介文、メッセージなどが記載された情報カードが必ず付いており、これも作業所や授産施設のスタッフの仕事に対するやりがいにつながっている。

「今後また皆さんの作業所と一緒に仕事をして、より多くのクリエイターやメーカー、お客さまにも参加していただくことで、魅力的な商品を生み出すと同時に、障害のある人たちの理解をさらに深めるようなお手伝いができると思っています。全国のお客さまとつながっていくことで、スタッフの励みになっていただけたら嬉しいですね」と永富さんは抱負を語ってくれた。

CCPでは一緒に商品作りをしよう仲間を募集しています。

パートナー募集 <http://feli.jp/ccppartner/>
商品掲載 <http://feli.jp/s/ccp/>

株式会社フェリスシモ
所在地 神戸市中央区浪花町59番地
TEL 078-325-5728
URL <http://www.felissimo.co.jp/>

平成24年度県社協の
事業・決算報告

5月30日、本会理事会・評議員会にて平成24年度の県社協事業報告と決算が承認された。「2015年計画」に基づく平成24年度の特徴的な取り組みと収支概要は次のとおり。

「ストップ・ザ・無縁社会」
全県キャンペーンがスタート

「無縁社会」に警鐘を鳴らすための県民運動として8月より開始した本キャンペーンでは、社会福祉夏季大学などを通じて啓発用資料の配布等を行ったほか、地域フォーラムの開催支援や機関紙・ホームページによる広報活動を積極的に展開した。

県社協アクションプランに
基づいた取り組み

Action 1 市町域での地域福祉の
推進力を高める支援

市町社協の地域福祉推進計画の策定支援や全国校区・小地域福祉活動サミットの共催などを通じて全県的な地域福祉の推進を図るとともに、社協の基盤強化方策等について研究を行い、その成果を「見守り活動

当事者の声を聴き、
「社協らしさ」を考える
「社会福祉協議会新任職員
研修を開催」

5月20～21日、社協新任職員研修を開催し、県内の社協職員70人の参加があった。本年度は、新たに当事者の思いを住民に分かりやすく伝える力の習得を目的として、当事者へのインタビューを通じて社協の広報紙を作成するという演習を設定した。登壇いただいた当事者の会の代表者からは、「介護者は自分一人で抱え込まず、できることから少しずつ介護に取り組むことが大切」「仲間を組織化し、人を支えることで自分も支えられる」といった報告があった。

完成した広報紙には、「当事者同士で日頃の悩みを話し合える場があること、お互いに支え合う関係が生まれる」など、参加者の気付きやそれぞれが読者に伝えたいと感じたことが書き込まれた。また、参加者からは、「当事者や住民の困りごとに耳を傾け、一緒に考え、地域に発信したい」「社協にしかできない活動をした」と今後の意気込みが発表された。最後に、コーディネーターの後藤

サポートブックなどの報告書として発行した。

Action 2 多様な主体が
つながり、
資源が循環する仕組みづくり

兵庫県との協働のもと、「地域づくり活動支援事業」を推進してNPO等の活動支援を行ったほか、研修等を通じて市町社協のボランティア・市民活動センター機能の向上とネットワーク強化を図った。

Action 3 質の高い福祉サービスの
充実・開発

「福祉の仕事ガイドブック」の内容を改訂したほか、新たに「新任職員〇」担当研修を実施するなど福祉

一般会計・公益事業特別会計・収益事業特別会計
資金収支計算書

区分	収支	一般会計	公益事業特別会計	収益事業特別会計
経常活動による収支	収入	473,224	936,581	16,129
	支出	408,266	849,000	16,005
経常活動資金収支差額		64,958	87,580	123
施設整備等による収支	収入	0	0	0
	支出	207	1,590	0
施設整備等資金収支差額		△ 207	△ 1,590	0
財務活動による収支	収入	339,595	3,988,081	0
	支出	366,028	4,062,582	123
財務活動資金収支差額		△ 26,432	△ 74,500	△ 123
当期資金収支差額合計		38,317	11,489	0

その他の特別会計資金収支計算書

区分	収支	生活福祉資金特別会計	生活福祉資金(災害)特別会計	生活復興資金特別会計	要保護世帯向け不動産担保型生活資金特別会計	生活福祉資金貸付事務費特別会計	臨時特例つなぎ資金貸付事業特別会計
経常活動による収支	収入	538,815	23,126	151	14,289	284,593	61,752
	支出	1,043,278	418	34	44,426	284,593	99,822
経常活動資金収支差額		△ 504,463	22,707	116	△ 30,137	0	△ 38,069
施設整備等による収支	収入	0	0	0	0	0	0
	支出	0	0	0	0	0	2,696
施設整備等資金収支差額		0	0	0	0	0	△ 2,696
財務活動による収支	収入	6,596,077	0	21	18,772	0	0
	支出	8,082,271	29,889	177	0	0	0
財務活動資金収支差額		△ 1,486,194	△ 29,889	△ 156	18,772	0	0
当期資金収支差額合計		△ 1,990,657	△ 7,181	△ 39	△ 11,364	0	△ 40,766

人材の確保・育成に努めるとともに、社会福祉法人による公益的な取り組みに関する調査を行い、新たな仕組みづくりについての検討を開始した。

Action 4 暮らしのセーフティネットの
充実・強化

福祉サービス利用援助事業の新規契約が206件に上るなど、利用

件数が大きく増加した。また、生活困窮者支援の強化が求められている中で、市区町村社協における生活福祉資金の相談支援の充実を図るための研修や実態把握を行った。

※事業決算報告は本会ホームページでも掲載しています。

URL

<http://www.hyogo-wel.or.jp/>

寄付について(お礼)

6月5日、県福祉センターにて、(株)トヨタレンタリース兵庫による車椅子の寄贈式が行われた。同社が社会貢献活動として実施しているもので、今年度で7回目。当日は、寄贈先の県身体障害者支援施設協議会、県知的障害者施設協会、県更生施設連盟へ目録が手渡され、本会の武田会長から同社の瀧川社長に感謝状が贈呈された。



「会の設立時の思いは?」「日頃の活動で切にしていることは?」など、当事者の会の代表者に質問を投げ掛ける。



至功さん(佛教大学講師)から、住民一人一人の思いや課題を大切にし、発信し続けるという社協の役割の重要性が強調された。今回の研修は、新任職員にとって、当事者の声に触れ、何をどう住民に伝えるのか、その方法や意義を学ぶ貴重な機会となった。

みんなの広場

兵庫県社協の会員からの情報発信コーナーです

絆を深め ころ豊かに暮らせる共生社会を目指して
公益財団法人 兵庫県手をつなぐ育成会

手をつなぐ育成会では、知的障害者の自立と社会参加を支援し、絆を深めころ豊かに暮らせる共生社会を目指して、研修事業・啓発事業・支援事業を行っています。

手をつなぐ育成会には地域生活・就労支援部会、学齢期部会、権利擁護部会、本人活動支援部会、施設・事業所部会、高齢化対策部会の6つの部会がありバラエティに富んだ活動を行っています。特に昨年発足した高齢化対策部会は、高齢化社会の中で親子ともども高齢化問題を抱えている会員が増えていることを踏まえた研修に力を入れています。



成年後見人養成講座の様子

また、若い世代はインターネットの普及から人と人のつながりが希薄になり、困ったときはネットの情報だけに頼りがちの人も多く見受けられます。同じ悩みを抱えている人

同士が語り合え、情報交換をしてこそ解決方法が見つかることも多々あります。手をつなぐ育成会は学齢期の子どもを持つ保護者や、障害を持たれている本人たちのためにそのような場を提供し研修や支援する活動も行っていきます。

人と人がつながり支え合うことで問題解決の道も開かれることがあります。それこそが手をつなぐ育成会の「手をつなぐ」の本当の意味となるものです。会員・地域・行政が手をつないで、知的障害者だけではなく全ての人にとって住みよい社会になるよう活動していきます。

こんな取り組みをしています

知的障害者福祉大会(今年度は近畿知的障害者福祉大会を併催)
成年後見人養成講座 8講座(延4日間) 県下2地区
地域生活援助者養成講座 8講座(延4日間)
障害基礎年金学習会 4会場(特別支援学校)

連絡先

公益財団法人兵庫県手をつなぐ育成会
〒651-0062神戸市中央区坂口通2-1-1兵庫県福祉センター 5階
☎078-242-4644 FAX078-242-4069

アピールしたい活動の
情報をお寄せください。

問い合わせ先

兵庫県社協 総務企画部 ☎078-242-4633 FAX 078-242-4153 E-mail info@hyogo-wel.or.jp

助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細は、それぞれの問い合わせ先にご確認ください。

一般財団法人 松翁会
 平成25年度 社会福祉助成金

社会福祉に関する民間の事業を対象に助成します。

対象 原則として法人、団体で以下の基準を満たすこと①障害者の福祉向上案件・難病案件・虐待防止案件を対象とする②明確な企画に基づく事業で具体的な計画を持つこと③推進体制が確立しており、自己資金の調達の努力をしていること など

助成金額 1件上限60万円(総額700万円)

締切り 平成25年7月31日(水)消印有効

①②一般財団法人松翁会 社会福祉事業部 助成係 TEL03-3201-3225

URL http://shouohkai.or.jp/zaidanhojin_shouokai/business/index.html

公益財団法人 みずほ福祉助成財団
 平成25年度 社会福祉助成金

障害児者の福祉向上のための先駆的・開拓的 事業や研究に対して助成を行います。

対象 社会福祉法人、特定非営利活動法人 等の非営利法人および任意団体、小規模作業所等又は5人以上で構成の研究グループ

対象事業 障害児者に関する事業および研究で、先駆的・開拓的の事業および研究

助成金額 事業助成:1件15万円以上100万円限度、研究助成:100万円限度

締切り 平成25年7月31日(水)必着

①②公益財団法人みずほ福祉助成財団 TEL03-3201-2442

URL <http://homepage3.nifty.com/mizuhofukushi/bosyu/bosyu01.html>

募集

第48回NHK障害福祉賞

障害のある方、障害のある方とともに歩んでいる方から、体験記録を募集します。

募集部門 第1部門: 障害のあるご本人の部門
 第2部門: 障害のある人とともに歩んでいる人の部門

応募規定 未発表の作品のみ、著作を職業としている人の応募は不可。字数は8000字(400字詰め原稿用紙20枚)以内。

賞 最優秀賞:賞状・賞金50万円・副賞、優秀賞:賞状・賞金20万円・副賞、佳作賞:賞状・賞金5万円・副賞、矢野賞:賞状・賞金20万円・副賞

締切り 平成25年7月31日(水)消印有効

①②NHK厚生文化事業団「障害福祉賞」係 TEL03-3476-5955

URL <http://www.npwo.or.jp/>

第19回NHKハート展

平成26年2月以降全国を巡回する、第19回「NHKハート展」の詩を募集します。

作品規定 障害のある人が書いた100字程度の詩(短くても可)。テーマ自由、タイトル要。自作の未発表の詩に限る。応募は一人5編まで。点字による応募も可能。

選考数 50編

締切り 平成25年8月8日(木)必着

①②NHK厚生文化事業団「NHKハート展」係 TEL03-3476-5955

URL <http://www.nhk-sc.or.jp/heart-pj/art/heart/poemform/>

2013年度「コラボ・アート21」作品募集中!

障害のある方々から絵画・陶芸などの作品を公募し、入選作品を展示します。

応募資格 障害のある方で関西圏にお住まいの方。個人・グループは問わない。

締切り 平成25年9月6日(金)

①②コラボ・アート21事務局

TEL080-5634-6500

URL <http://www1.kepco.co.jp/kyousei/fukushi/art/index.html>

研修・イベント

東日本大震災復興支援 はなした
 聞きたい伝えたいなんでも話隊

東日本大震災の影響で関西にお越しの方を対象に開催します。

日時 平成25年7月20日(土)13:30~15:30

会場 花と緑のまちづくりセンター(明石市明石公園内)

内容 参加者同士の交流、司法書士・臨床心理士によるなんでも相談会など(参加無料)

①②兵庫司法書士会

TEL090-1899-7209

平成25年度 介護支援専門員実務研修
 受講試験対策模擬試験

主催 一般社団法人 兵庫県老人福祉事業協会

日時 平成25年9月16日(月・祝)10:00~16:00

会場 兵庫県私学会館4階 大ホール

受講料 兵庫県老人福祉事業協会の会員施設の職員 3,000円、その他 1万円

締切り 平成25年7月31日(水)必着

①②中央法規出版株式会社 大阪営業所

TEL 06-6351-9079

URL <http://www.hyogo-kenrokyo.jp/>

行事予定

- 7月 1日 福祉サービス利用援助事業生活支援員研修会(新任)◆県福祉センター
- 1~2日 県民児連主任児童委員部会全県研修会◆神戸ポートピアホテル
- 2日~9月12日 介護支援専門員更新B・再研修◆県社会福祉研修所
- 3日 第1回権利擁護部会◆県福祉センター
- 4日 第1回地域福祉推進部会◆県福祉センター
 第1回市町村協活動推進協議会幹事会◆県福祉センター
- 5日 第1回福祉事業推進部会◆県福祉センター
- 9日 第1回社協マネジメント塾◆県福祉センター
- 11日 会計実務担当者研修(基礎編)◆県社会福祉研修所
- 18~19日 相談面接技術研修(初級・Aコース)◆県社会福祉研修所
- 19日 経営協 第226回理事会◆県福祉センター
- 24・31日 コミュニティワーク基礎研修◆県社会福祉研修所
- 25日 社会福祉法人経営計画策定セミナー(全4回)◆県福祉センター
- 26日 第2回県内社協事務局長会議◆県福祉センター
- 29日 第52回社会福祉夏季大学◆神戸芸術センター
- 29日・8月26日 保育リーダーゼミナール(全4回)◆県社会福祉研修所
- 30日 県内社協会長会議◆神戸芸術センター
- 8月 2日 会計実務担当者研修(実践編)保育・措置コース◆県社会福祉研修所
- 6日 新任職員OJT担当者研修(基礎編)◆県社会福祉研修所
- 22日 会計実務担当者研修(実践編)高齢コース◆県社会福祉研修所
- 29日 チーム・マネジメントリーダー研修Aコース(全4回)◆県社会福祉研修所



わたしが毎日笑顔なワケは
 快適なユニフォームを
 着ているから。

吸汗速乾

カタログ
 無料進呈中
 どうぞお電話下さい!

例えば...
 ドライポロシャツ (FLORIDAWIND P335) + ロゴ印刷 (シルク印刷)

1枚当
 100枚
 の場合

990円

オリジナルウェアプリントの
ORIGIN.INFINITY

無料見積
 デザイン
 無料~!

0120-192105
 オリジンインフィニティ 検索

株式会社オリジン | 大阪府大阪市天王寺区小橋町 2-1
 TEL:06-6765-4470 FAX:06-6765-4480